

第6回「大人のためのブックトーク」

12月24日 I AMAS 小林図書館長と当館司書による本年度6回目のブックトークを開催しました。その時の紹介文が届きましたので、ご紹介します。

参加：35人

『胎児の世界』 三木成夫
中公新書 1983年



六十一歳で急逝した解剖学者が生前に遺した唯一の書物。新書という形態でありながら、そこに広がる宇宙は限りなく広い。解剖学は空間の学問だが、三木はそれを時間化し、悠久の歴史の体積のなかにすべての生物の呼吸を読み取ろうとする。そこで登場する鍵語が「おもかげ（面影）」であり、ヒトはあらゆる生物の痕跡をその身体のどこかにそっと潜ませているのである。これほどの冷徹たるロマンチストが解剖学者として活躍していたこと自体が奇跡の、そのまた奇跡の一冊である。

『略奪した文化 戦争と図書』 松本剛
岩波書店 1993年



戦争が奪うものは領土や人の命ばかりでなく、およそ文化と呼ばれるあらゆる知的営為に及ぶ。そのなかでも書物は金銀財宝の宝物に等しい価値をもち、同時に占領した国家の「知の栄養」となっているものだ。本書は第二次世界大戦において、旧大日本帝国がいかにして中国大陸から「文化財保護」という詭弁のもとにおびたらしい文献を略奪してきたかの「書物略奪史」。軍部が文化を高等なものと考えているきらいはなく、あくまでもわが国の知的上層部がこの略奪に関与していたかを教えてくれる渾身の一冊。

『火あぶりにされたサンタクロース』
クロード＝レヴィ・ストロース 中沢新一 訳／解説
角川書店 1995年



サンタクロースとクリスマスの歴史は古くて新しい。クリスマスは古代ローマやケルトの異教の影響のもとに成立していたが、十九世紀になり、その様式を上手に利用して聖ニコラウス＝サンタクロースが登場することになるからだ。本書は1952年にフランスのディジョンの教会でサンタクロース像が火刑に処せられた事件をめぐって書かれたテキストだが、クリスマスの多宗教的起源やキリスト教原理主義の戦略がわかるばかりでなく、戦後アメリカの消費文化に抵抗しようとしていたフランスの「善なるもの」がかいま見える一冊である。

【岐阜県図書館：渡辺司書によるおすすめ本の紹介】

『山田風太郎明治小説全集第7巻・明治十手架ほか』
山田風太郎 筑摩書房 1997年

『サンタクロース公式ブッククリスマス正しい過ごし方一』
パラダイス山元 著／監修 小学館 2007年

『神々の午睡 上・下』 清水義範 講談社 1992年

○感想等

- ・ 著者、三木成夫氏の紹介、興味深くお聞きました。ぜひ『胎児の世界』を読んできたくまりました。
- ・ とても楽しくためになるので、また来たい。
- ・ 小林先生の紹介の図書は、いつも感動します。
- ・ 紹介していただいた書籍は、一度も読んだことがありませんので、是非読んでみたいと思いました。各書籍の内容が詳しく当時の状況が分かり、実際に読むのが楽しみです。
- ・ 知らない本ばかりなので、とても参考になりました。『略奪した文化』も読んでみたいと思います。
- ・ 今回もとても興味深い本と出会えました。早速読みたいと思います。
- ・ 大学の講義のようで楽しいです。いろんな情報が次から次へと出てくるのが面白い。
- ・ わくわくしてきた。
- ・ メモは取りましたが、紹介される本の書名や著者名のプリントが欲しい。

↓

【図書館から】

紹介される本については、当日のお楽しみということで、事前に情報をいただいております。当館司書のブックトーク終了後、メモしていただける用紙（当館司書の紹介本は記載）を配付いたします。紹介が終わりましたら、会場の後ろに本を展示いたしますので、必要がございましたら、ご記入いただきますようお願いいたします。